

事業所における自己評価結果（児童発達支援）

公表： 令和7年3月10日

対象スタッフ: 4名

事業所名: ステップメイトぱる

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善内容、改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4		・2階もあるのでグループごとなど分かれることもできる。	
	②	職員の配置数は適切である	3	1		・利用児がこれからもっと増えると思う(増員検討)。
	③	生活空間は、本人に分かりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4			
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	3	1	・毎日消毒している。 ・掃除、消毒は徹底している。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるためにPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	1		
	⑥	保護者様に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者様の意向等を把握し、業務改善につなげている	4		・職員間で話し合い、保護者の方へ疑問点や要望を伝えるようにしている。 ・アンケートをとっている。	・努力していきます。
	⑦	事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4			
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	2		・今後必要があれば実施し業務改善に繋がってほしい。
	⑨	職員の資質の向上を行うため、研修の機会を確保している	4			・ステップアップのためにも研修会の機会を設けてほしい。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえで、個別支援計画を作成している	4		・ミーティングをしている。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4			
	⑫	児童発達支援ガイドラインを踏まえ、子どもの支援に必要な項目を複数組み合わせる上で、具体的な支援内容が設定されている	4			・短期目標と長期目標をもう少し具体的に決め、本人にも分かりやすい目標設定にしていこうと思います。

適切な支援の提供	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4			
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	4			・ミーティングで話している。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4			・毎日リーダーが変わるので、様々な視点から活動を設定できる。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団行動を適切に組み合わせ児童発達支援計画を作成している	4			
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の内容や役割分担について確認している	3	1	・少しの時間だが「〇〇するので〇〇先生の配置は…」など話し合うようにしている。	・送迎等でなかなか時間がとれない。 ・必要で大事なことが現状なかなかできていないので困惑する部分もある。
	⑱	支援終了後には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りや気づいた点等を共有している	3	1	・利用児が帰った後や少ない時間帯に話し合って意見交換している。	・送迎等でなかなか時間がとれない。 ・共有しお互いに高め合いながら質の高い支援に繋がれたらと思う。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4			
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4			
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしいものが参画している	4			
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4			
	㉓	子どもの主治医やかかりつけを把握している。また、協力医療機関と連絡体制を整えている	2	2	・相談に対して、自分の知識内の範囲で答えた。	・把握はしているが連絡体制は不明。
	㉔	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	2		・就学前の連絡会はあったが、幼保はまだ機会がない。
	㉕	他の児童発達支援センター、児童発達支援事業所等の専門機関と連携し、情報共有や研修・助言を受けている	2	2		
	㉖	保育所や認定こども園、幼稚園、小学校等との交流など他の子ども達と活動する機会がある	2	2		
	㉗	自立支援協議会や子ども部会、地域の子ども会・子育て会義などに積極的に参加している		4		・努力します。 ・そのような機会がまだない。 ・今後の課題だと思う。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4			・送迎時や連絡帳で伝えたり、インスタに載せている。 ・出来たこと、苦手そうなこと、今日の出来事等話す。相手に合わせて伝え方を変える等工夫するようにしている。

	②9	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	2		・ペアトレの質はもう少し向上したい。
保護者への説明責任等	③0	運営規定、重要事項説明、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	1		
	③1	個別支援計画を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ている	4			
	③2	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		・自分の子どもの経験等交えながら話をすることがある。	
	③3	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催するなど、保護者同士の連携を支援している		4		・まだ開催できていないが今後行っていく(必要に応じて) ・今後の課題であると感じる。
	③4	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4			
	③5	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	1		
	③6	個人情報の取扱いに十分注意している	4			
	③7	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4			
	③8	事業所の行事に地域住民を招待するなど、地域に開かれた事業運営を図っている		4		・今後機会があれば行う。 ・作品展など今後も続けていき、地域との交流を深めていけたら良いと思う。
非常時等の対応	③9	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4		・毎月訓練している。	
	④0	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行っている	4		・同上	
	④1	アレルギーや既往歴など、子どもの状況を事前に把握し対応している	4			
	④2	ヒヤリハットなど事例集を作成し事業所内で共有している	2	2	・まだ(事例がない)	
	④3	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保するなど、適切な対応をしている	4			
	④4	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に説明し了承を得たうえで、児童発達支援計画に記載している	4			・現在までそのような事例がない。

※この「事業所における自己評価結果」はスタッフが事業所を評価した自己評価です。